
オンキヨーホームエンターテイメント株式会社 事業紹介① ホーム AV 事業戦略について

オンキヨーホームエンターテイメント株式会社は、2021年1月29日付「当社グループのご紹介について」で、ご説明の通り、ホームシアターやオーディオを主とした「ホーム AV 事業」、ヘッドホンを中心とした「ヒアリングデバイス事業」、そしてゲーム周辺機器の「ゲーミング事業」の3事業を事業ドメインとしております。

今後、数回のシリーズで、オンキヨーホームエンターテイメント株式会社の主要事業のご説明をまいります。

第1回目は、「ホーム AV 事業戦略」のご説明となり、要旨については次の通りです。

- ホーム AV 事業は、オンキヨーホームエンターテイメント株式会社の約8割を占めるメインの事業であり、かつ売上の海外に占める割合は約7割。またホーム AV 事業の約6割はホームシアター関連製品（AVレシーバー）が占めており、このAVレシーバーの市場は主に北米である（オンキヨーは、北米では、オーディオよりもホームシアターブランドとしての認知度が高い。）。
→資料3～8ページ
- 外的要因として、ホーム AV 事業の市場は縮小し続けていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、自宅で映画や音楽を楽しむ人が増え、縮小し続けていたホーム AV 市場が増加に転じるなど、市場環境に変化があった。（特に事業規模の大きい北米市場においてこの傾向が顕著である。）
→資料9～12ページ
- 内的要因として、固定費やワーキングキャピタルの負担が大きく、利益を出せない状態が継続していたが、構造改革を進め、固定費やワーキングキャピタル面で大幅な改善を実施し、利益体質への転換が進んでいる。
→資料13～17ページ
- このような背景から、本年度第4四半期から生産を拡大し、また来年度初頭にはAVレシーバーの新製品を投入することで、早期の黒字化を計画している。
→資料18～20ページ

なお、近日中に北米市場および生産・出荷の状況について、より詳しくご説明を行う予定です。

また本シリーズと並行して、AVレシーバー商品の魅力・特徴をシリーズでご紹介しておりますので、是非ご覧ください。

【関連リンク】

- ◆当社グループのご紹介について（2）オンキヨーホームエンターテイメント株式会社

https://onkyo.com/ir/ir_news/date/2020/20210129_JQIR_gaiyousetsume_i_OHE.pdf

ONKYO.

A decorative graphic consisting of several overlapping, wavy blue lines that flow from left to right across the upper portion of the slide.

事業紹介：ホームAV事業について

オンキヨーホームエンターテインメント株式会社

2021.2.15

ホームAV事業とは

オンキヨーホームエンターテイメント株式会社

ホームAV・ヒヤリングデバイス・ゲーミング事業

ELITE Integra ONKYO Pioneer SHIDO



ホームオーディオ



ホームシアター



デジタルライフ



補聴器・電話機



ゲーミング

音楽、映画体験を提供するオーディオは自社ブランドで設計製造販売

オンキヨーサウンド株式会社
B2Bスピーカー供給・OEM事業など

オーディオ以外での音楽や映画体験は
他社へサウンドの技術や部品で提供

オンキヨー株式会社
音楽配信・クロスマーケティング事業など

音楽や映画以外の音に関する
振動等の技術を活用、AIとの関係

事業ドメインについて

売上構成比
80%

ホームAV事業

ホームシアター& ホームオーディオ事業展開

- ホームシアター商品の充実と拡大



AVレシーバー ホームシアターパッケージ

- オーディオ商品の充実と拡大



HiFi コンポ



ミニコンポ

- 住宅関連事業の拡大



天井取り付けスピーカーなど

ヒヤリングデバイス事業 (旧デジタルライフ事業)

ヘッドホンを中心とした パーソナル事業展開

- ヘッドホン商品の充実と拡大



Bluetooth
ヘッドホン



Truly
Wireless



マイク/
スピーカー

- シニア向け商品の充実と拡大



TV用スピーカー



補聴器



集音器

- 電話機商品の充実と拡大

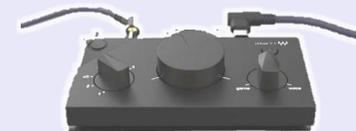


電話機

ゲーミング事業

ゲーム周辺機器 "SHIDO" 事業展開

- ゲーミングアンプの
充実と拡大



- ゲームミングイヤホンの
充実と拡大



- ゲーミングヘッドセットの
充実と拡大



ONKYO

Integra

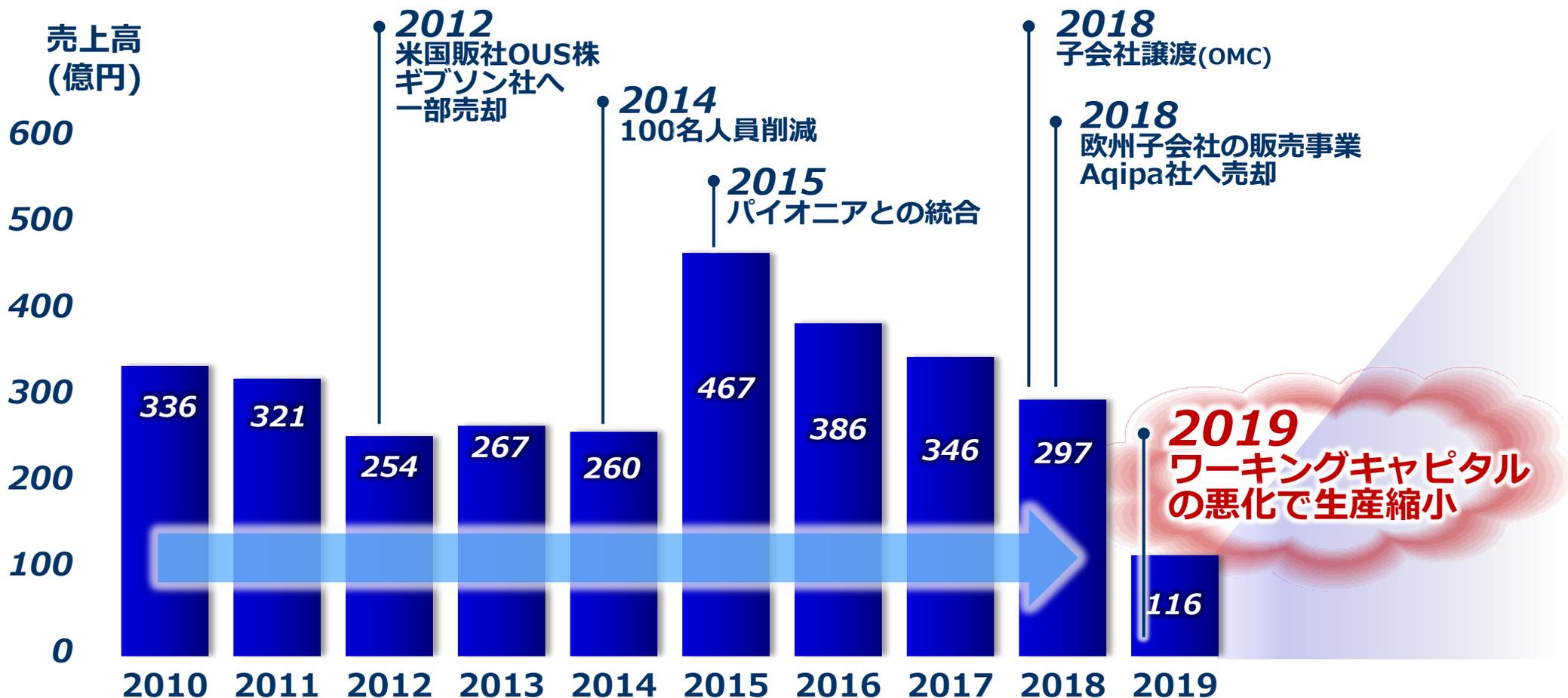
Pioneer

ELITE

SHIDO

これまでの ホームAV事業の状況

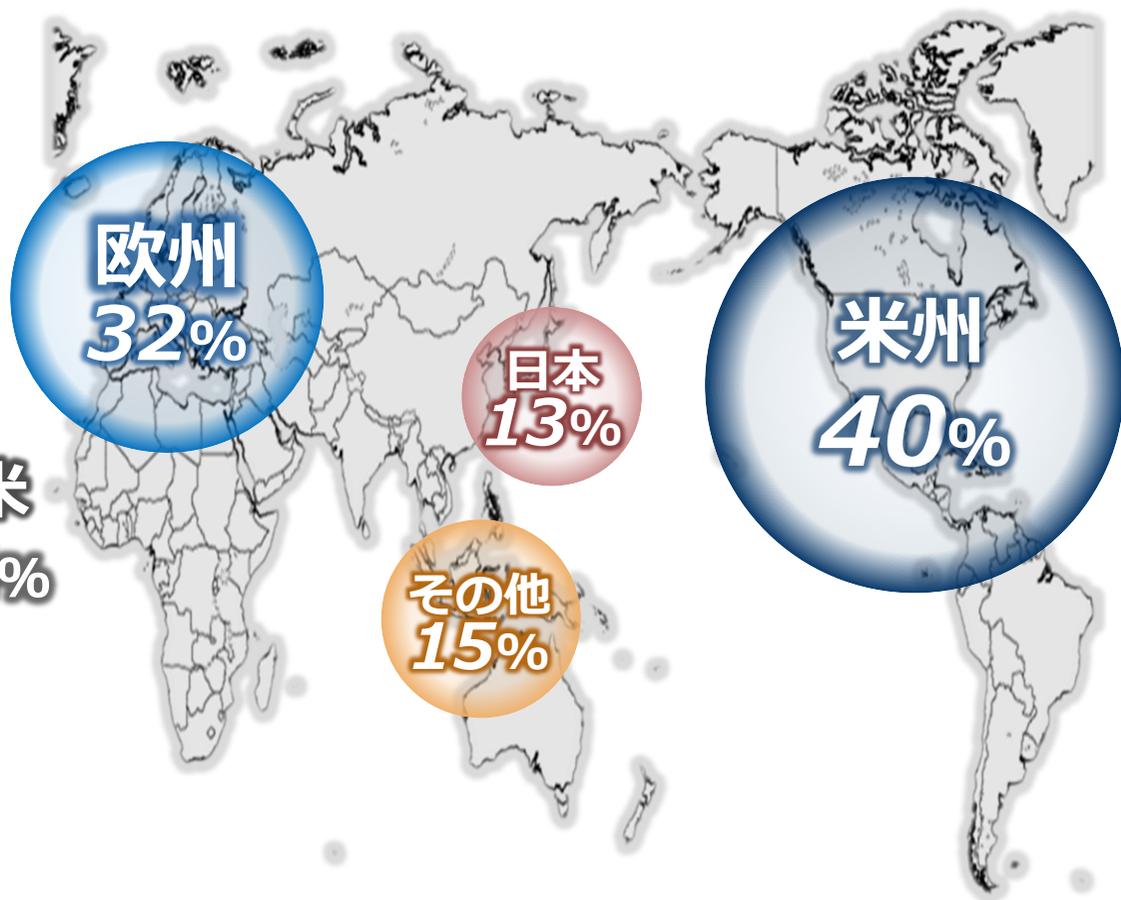
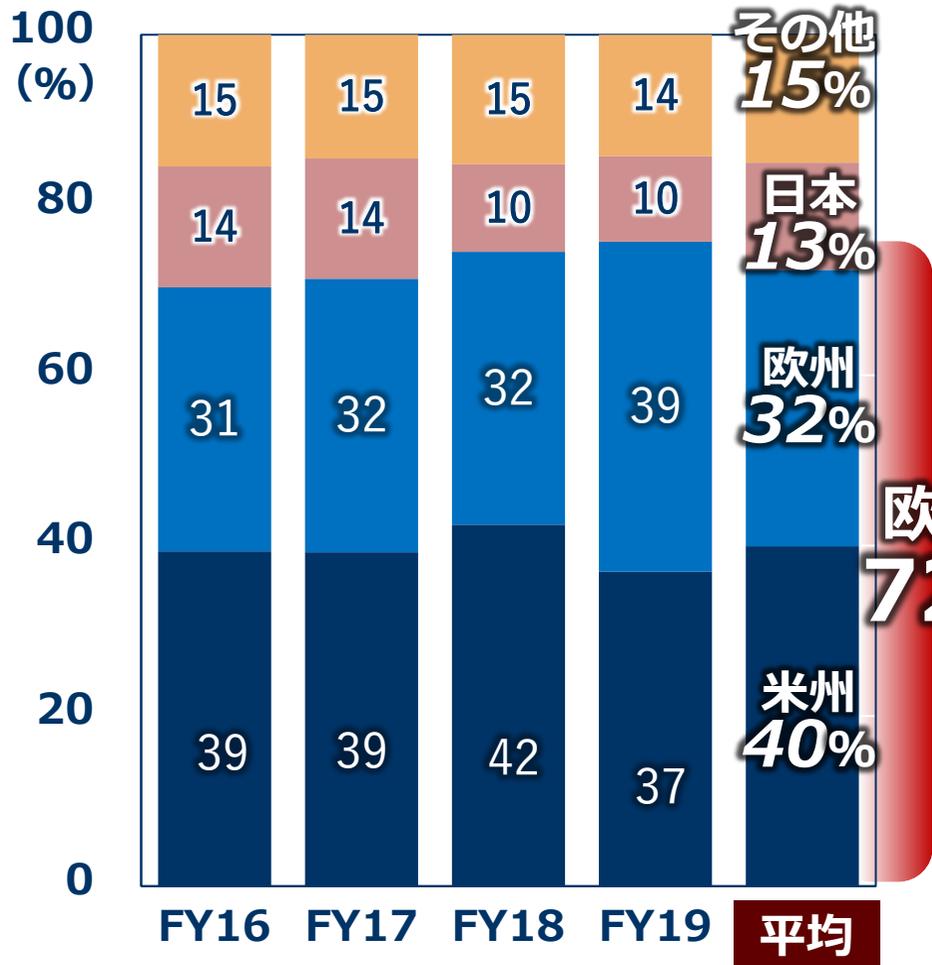
過去のホームAV事業の推移



2018年まで300億円程度の売上を続けてきたが、
2019年はワーキングキャピタルの悪化に伴い生産縮小で売上が大幅減少

地域別出荷構成比

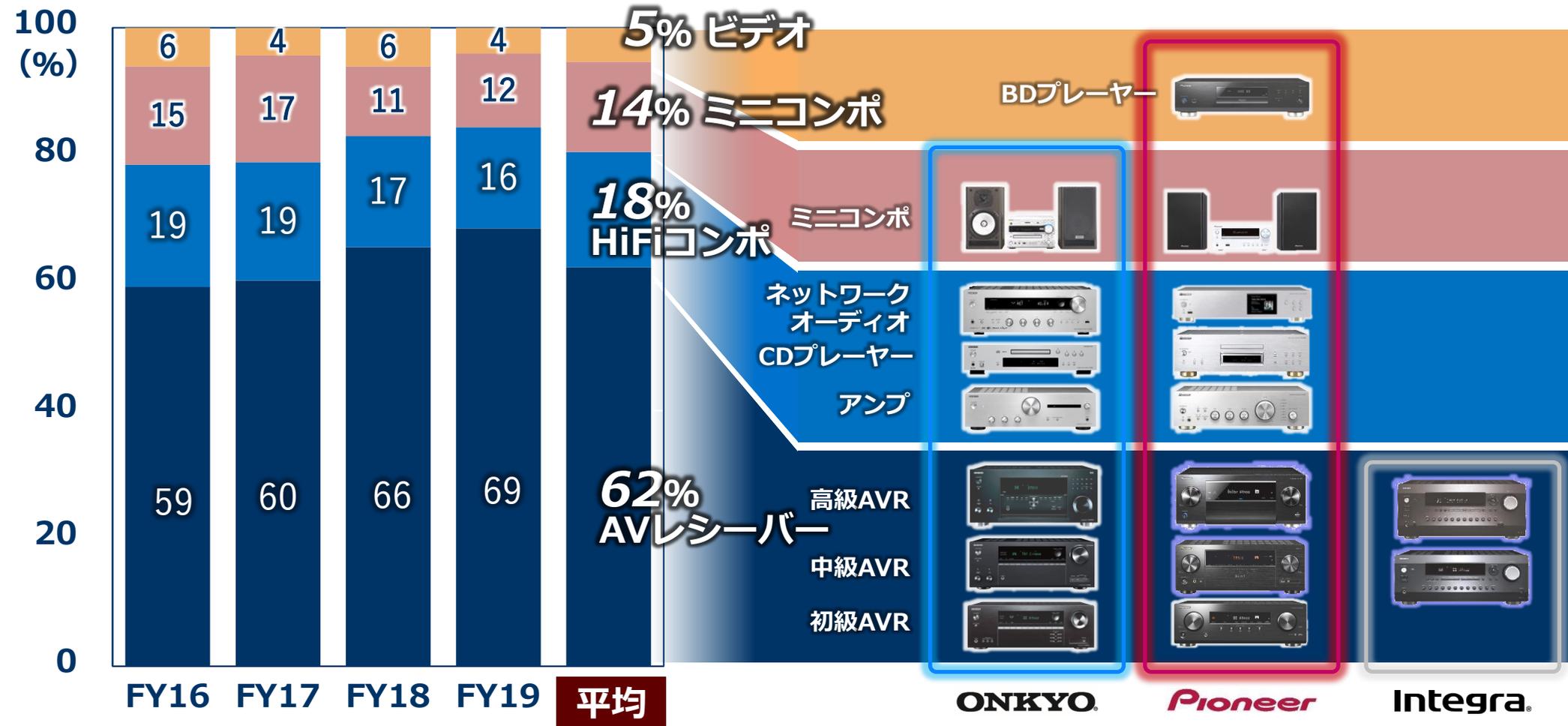
FY16 – FY19



ホームAVの主戦場の欧米を中心にAVレシーバー、HiFiコンポを長年出荷

カテゴリー別売上構成比

FY16 – FY19



ホームAVの主戦場の欧米を中心にAVレシーバー、HiFiコンポを長年出荷

当社ホームAV事業を 取り巻く環境の変化

外的要因の変化

コロナ禍の“巣ごもり需要”でHAV市場環境も好転
特に、北米市場の回復が顕著、VOXX社との連携を強化

市場環境の変化について

新型コロナ禍による市場変化と需要の顕在化

1 家電大型専門店売上 12月度
前年同月比 **114.7%**
AV家電は **121.1%** 経産省発表

- TVの大型化 **米国 65インチ以上 全体の21%** テレビ市場 119% NPD調べ
- 巣籠需要で市場伸張 **米国CTAは2021年家電売上高を対前年4.3%増と予想**

2 日本では8K(22.2ch音声)放送
本格スタート BS 4K 110CS 4K BS 8K
HDMI 2.1規格の家庭用ゲーム機
(PS5/X-BOX)全世界で**発売開始**

- 8KTV対応 (HDMI2.1)
 - 22.2ch 3Dサラウンド対応 (Dolby ATMOS等)
 - 家庭用ゲーム機の HDMI2.1への移行
- HDMI2.1対応
AVレシーバー
買替需要の喚起**

3 米国 住宅インストーラービジネス
およびオーディオ販売が伸長



- 米国CI市場 リーマンショック後 毎年成長
→ **AVR/オーディオ販売も増加** CE Pro2020 report
- US住宅着工件数12月
2006年9月以来の高水準 **前月比 105.8%** **前年比 105.2%**
米国商務省発表
- 日本は新築着工数は減少傾向でも
リフォーム需要は堅調な見込み 野村総合研究所予測

市場環境の変化を好機と捉え、当社の蓄積された独自のホームAV技術を発揮する

市場環境の変化について

新型コロナ禍による市場変化と需要の顕在化

4 テレワーク増加で
PCスピーカーなどの需要が増加

ワークスタイルの変化

- 2020年上半期ヘッドホンヘッドセット
販売本数前年比7%増の1,040万本

前年比 (台数)

107% ↑

GfK Japan

- マイクスピーカーなどの
PC周辺機器も伸長傾向

5 サブスクリプション人口急増
ネット配信サービスの普及で
家庭内での視聴機会が増加

- 日本 "Netflix"
新規加入大幅増加
全世界では昨年末で2億人を突破

2019年
300万

2020年9月
500万強

Netflix発表

- "Disney +" 加入者
独自ドラマ増加

4月時点
5000万

12月末時点
9490万

Disney 発表

- "ONE OK ROCK" "嵐" "B'z"
など次々とライブ配信

BARKS記事より

サザン配信視聴者数
50万人

6 ステイホーム拡大に伴い、
Eコマースへ購買行動がシフト
2020年年末商戦のネット通販の売上
対前年24%増 (NRF全米小売業連盟)

- Eコマースを使った
ダイレクト販売比率の高まり

高収益体制構築の
チャンス

- Eコマースへのシフト

より効率的な販売体制へ

最強新パートナーVOXXと主戦場米国でV字復活スタート！

VOXX International Corporation

- 著名スピーカーブランドを保有

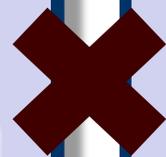
米国スピーカー販売シェア No.1



Klipsch® Jamo® HECO® Magnat

- 幅広い販路・営業力を保有

- 主要量販店
- Buying Group
- 主力米国 Distributorほか



ONKYO

- 欧米市場で高い評価を得ているAVレシーバー4ブランドを保有

ONKYO

Pioneer

Integra

ELITE



米国AVレシーバー市場は前年比5%伸長

最強 **ホームスピーカー** と最強 **AVレシーバー** がタッグを組み
最強の販路と営業力で **米国シェア1位** を目指す

当社ホームAV事業を 取り巻く環境の変化

内的要因の変化

固定費とキャッシュフローが課題だったが
主要販売代理店の変更と構造改革により利益体質へと改善

利益体質へ転換

(百万円)

12,000

10,000

8,000

6,000

4,000

2,000

0

9,641

6,712

2,930

FY18
実績

5,766

3,566

2,200

FY19
実績65%
削減

3,351

2,270

1,081

FY20
見通し

3,238

2,263

975

FY21
計画

3,553

2,578

975

FY22
計画

3,902

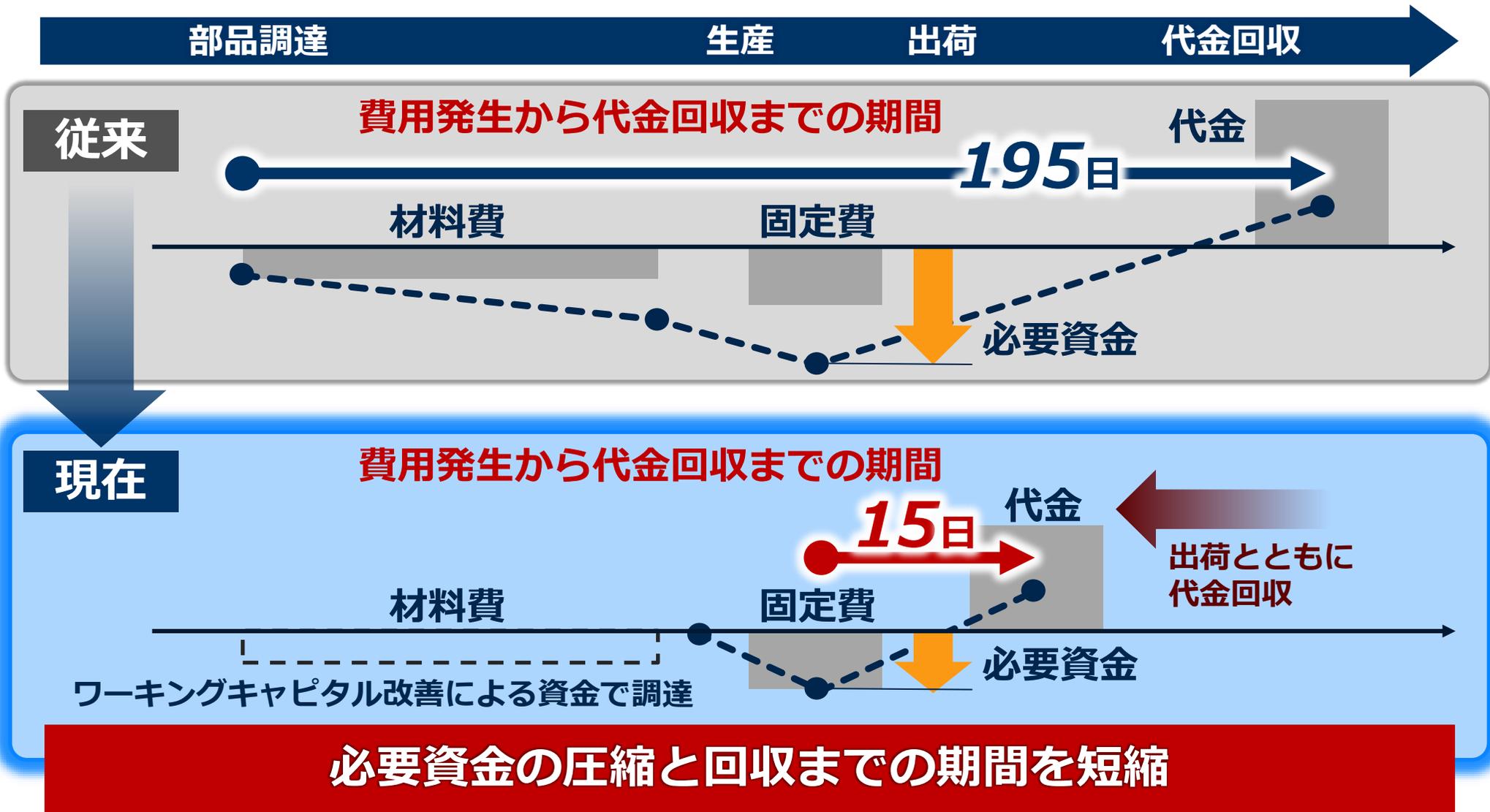
2,927

975

FY23
計画

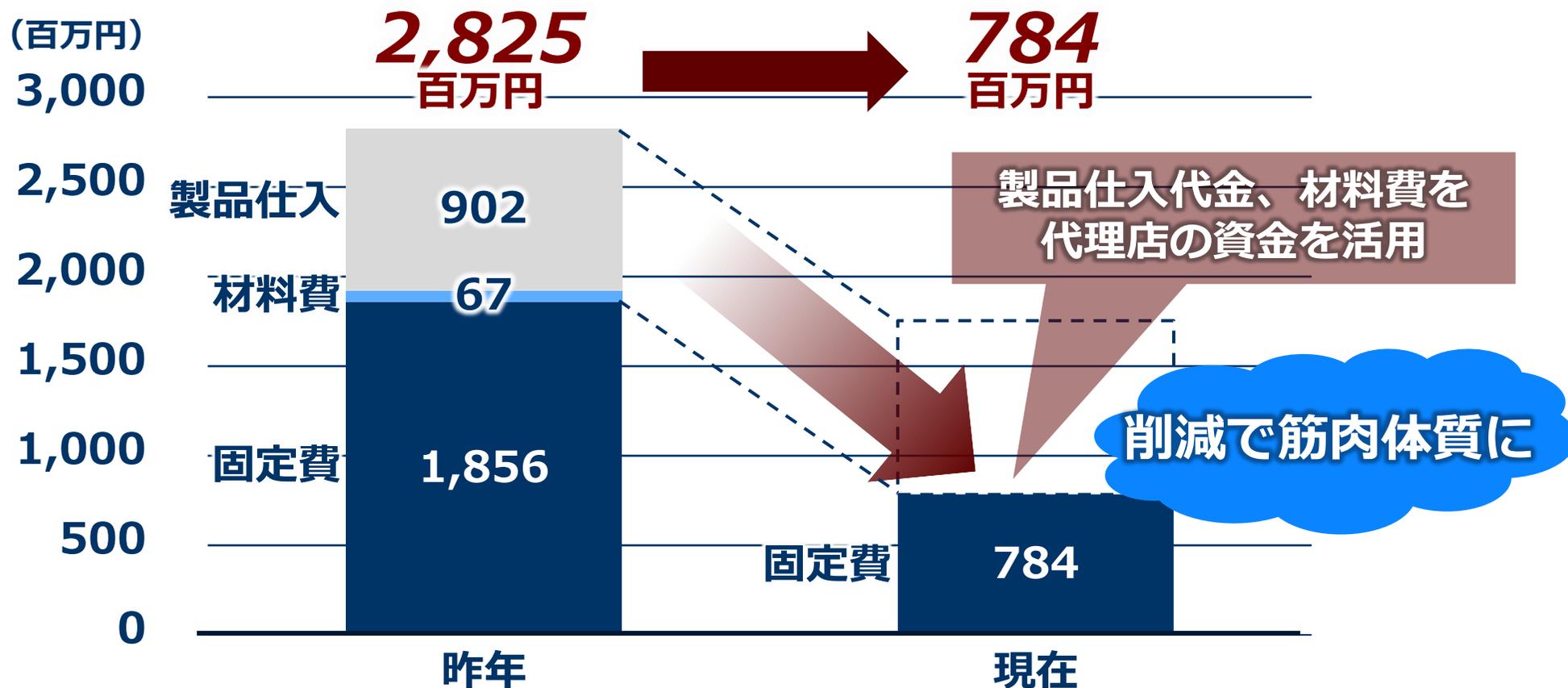
筋肉質で黒字化へ

費用発生から代金回収までの期間を大幅短縮 ワーキングキャピタルの改善-日数



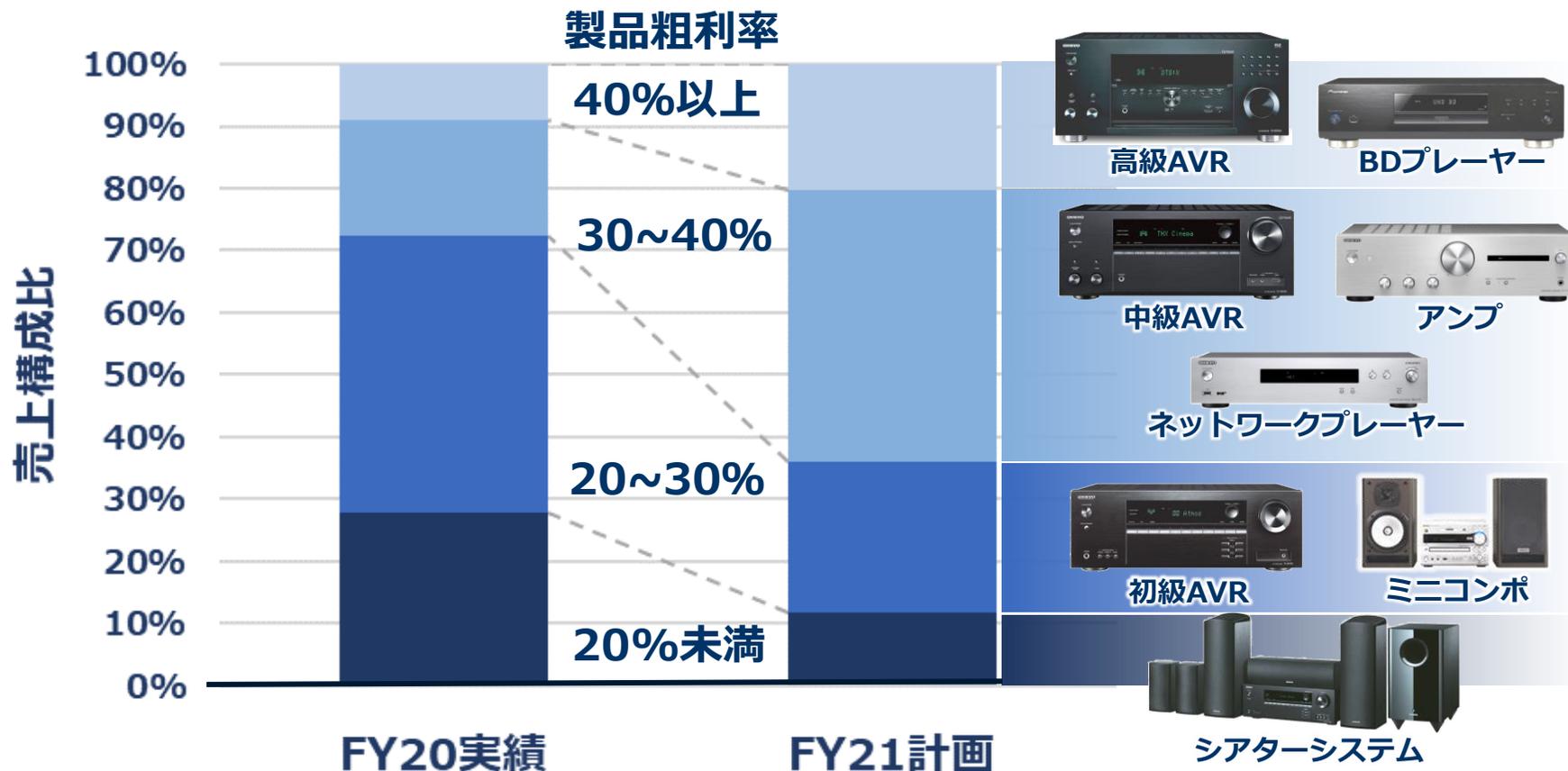
必要自己資金を大幅軽減 ワーキングキャピタルの改善-金額

第4四半期における従来比較



代理店変更と筋肉体質により必要自己資金の軽減を実現

製品粗利率別売上構成比



高付加価値機種へのシフト、機種絞り込み、
カスタムインストレーションビジネスの強化により粗利率改善

新製品の導入

ホームAV事業 “新製品導入”

全モデル新HDMI2.1規格対応/主戦場の欧米で2021年4月より導入開始!
8K時代の映画からゲームのコンテンツを愉しむ強カラインナップ

<p>ONKYO.</p>	<p>DRX-5.4 \$1,900 120W(FTC) HDMI2.1 Dirac Live THX Web Setup</p>  <p>New June/2021</p>	<p>Pioneer ELITE</p>
<p>TX-RZ50 \$1,099 120W(FTC) HDMI2.1 Dirac Live THX</p>  <p>New June/2021</p>	<p>DRX-3.4 \$1200 100W(FTC) HDMI2.1 Dirac Live Web Setup</p>  <p>New June/2021</p>	<p>VSX-LX505 \$1,199 120W(FTC) HDMI2.1 Dirac Live IMAX</p>  <p>New June/2021</p>
<p>TX-NR7100 \$899 100W(FTC) HDMI2.1 Dirac Live THX</p>  <p>New June/2021</p>	<p>DRX-2.4 \$800 80W(FTC) Web Setup</p>  <p>New August/2021</p>	<p>VSX-LX305 \$999 100W(FTC) HDMI2.1 Dirac Live IMAX</p>  <p>New June/2021</p>
<p>TX-NR6100 \$699 100W(FTC) HDMI2.1 THX</p>  <p>New August/2021</p>	<p>Integra.</p>	<p>VSX-LX105 \$699 100W(FTC) HDMI2.1</p>  <p>New August/2021</p>
<p>TX-NR5100 \$499 80W(FTC) HDMI2.1</p>  <p>New June/2021</p>	<p>4月より発売開始</p>	

ホームAV事業 売上見通し

(百万円)

4,000

3,500

3,000

2,500

2,000

1,500

1,000

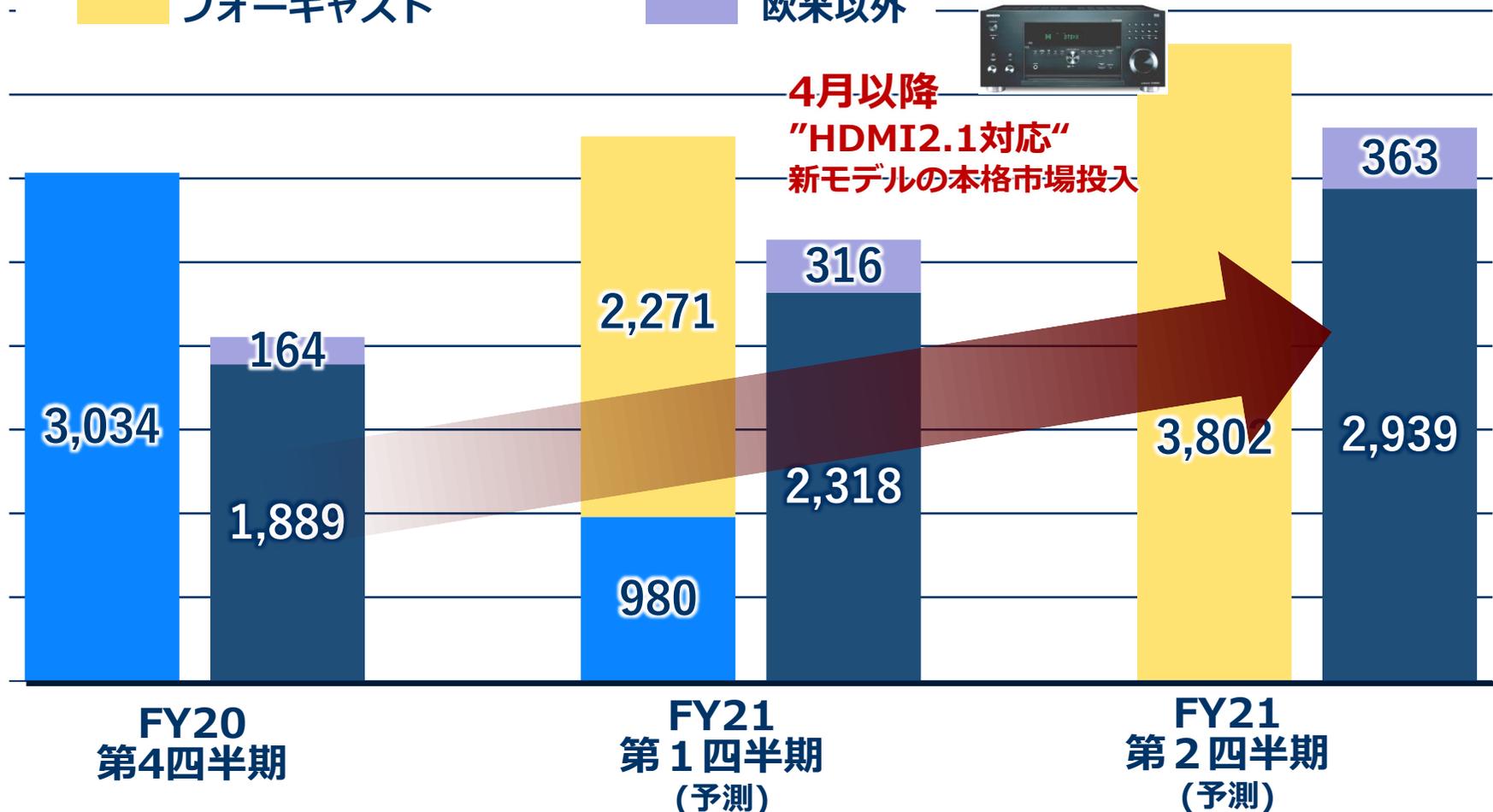
500

0

■ 受注確定金額 ■ 生産計画 ■ 欧米向け
 ■ フォーキャスト ■ 欧米以外



4月以降
 "HDMI2.1対応"
 新モデルの本格市場投入



第4四半期より受注大幅拡大、生産再稼働で黒字化実現へ

ONKYO®

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的として作成したものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に記載された意見や将来予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。